

「児童（子ども）の権利条約を学ぼう」

－児童（子ども）の権利条約ビデオ作りを通して－

○共生(連帯) ○気付き・意欲 ○自己主張 ○自己表現 小学校 6年

※以下、「児童（子ども）の権利条約」は、「子どもの権利条約」とする。

1 題材設定の趣旨

世界には、民族紛争による虐殺や難民問題など、貧困や食糧不足で苦しんでいる状況が各地から報告されている。また、日本においても凶悪殺人事件や幼児の虐待、校内暴力やいじめに象徴されるように、子どもの人権が軽視される傾向が見られる。こうした人権状況を改善するため、社会科で「基本的人権」を学ぶ小学校6年生が、学習活動を通して人権について学び、自らを振り返り自分たちの思いを次の学年に伝える機会を持つことは有意義であると考え、本題材を設定した。

2 ねらい

- ・仲間や世界の子どもについて、いろいろな生活や願いがあることを知り、それに共感し、共に生きていくあり方を考える。
- ・自分の思いや願いを明らかにすることから、自分にとって本当に大切な権利とは何かを考える。
- ・「子どもの権利条約」を知り、自分や世界の子どもにとって保障されなければならない権利について考える。
- ・自分の生活や仲間関係、学校や児童会の在り方を見直し、子どもの人権問題の解決の方向や自分たちにできそうなことに取り組む力を付ける。

3 指導計画 <11時間扱い>

時間	学習内容（教科）	活動内容（人権教育の学習）	評価
1	①世界には厳しい状況の中に生きる子どもたちがいることを知る (総合的な学習の時間)	・社会科で世界には紛争、貧困、食糧不足など様々な問題があることを知った子どもたちが、「トットちゃんとトットちゃんたち（タンザニア）」を読みながら学習する。 ・(フォトランゲージ) 写真から世界の子どものおかれた厳しい現実を読み取るとともに、明るさやたくましさを感じ取る。	・世界の苦しんでいる子どもたちの存在に気付き、たくましさを感じ取る。
1	②欲しいもの・必要なものを認識する (総合的な学習の時間)	・(カードランキング) 自分の願いや生きていくために必要なもの・欲しいものを権利として意識する。 ・グループで行う。	・互いの考えに共感しながら自分の考えを述べる。 自らの豊かさを実感する。

2	③子どもの権利条約を調べる (総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・(カード分類・ランキング) グループで子どもの権利条約を分類しながら内容や意義を知り、自分や学校にとって大切な条文を自分のものとして意識する。 ・インターネットで詳しく調べてみる。 <p>〈cf; 社会「わたしたちの生活と政治」などに関連させ、子どもの権利条約を視点に政治の働きを考えることができる。〉</p>	<p>「子どもの権利条約」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって価値観や感じ方が違うことに気付く。 <p>自分の生活を振り返る。</p>
5	④私たちの権利条約を作る (総合的な学習の時間・国語)	<ul style="list-style-type: none"> ・しほりこんだ条文の願いをより深く理解し、自分たちの思いを5年生に伝えるために、コマercialビデオにする。 <p>〈国語「思い出をシナリオに」の内、3時間を活用する。〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識を持ちながら、協力してビデオを制作する。
2	⑤5年生に見てもらい、まとめる (国語・学級活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・国語「クラス討論会」で事前に学級内でのコマercial発表会を開き、気付いた点などを1時間話し合い、5年生に紹介文を書く。 ・5年生にビデオを見てもらい、活動を通して自分で考えたことをまとめ、この権利を自分たちの今後にどのように活用していくかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校をよくするために伝えたいことを考え、中学校進学に向けての期待を持つ。

4 具体的な活動内容

A 実践記録 1 『今、世界の子どもたちは』 <11時間中の第1時>

時間	児童の活動	指導・支援
つかむ (5')	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習から、世界の多くの子どもたちが紛争、貧困、食糧不足などの犠牲になっていることを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界には子どもに関して解決すべき問題がたくさんありました。思い起こしてみましよう。」 <p>例：社会科教材スーダンの子どもを励ますユニセフ親善大使の黒柳徹子さんの活動などから。</p>
ふかめる (30')	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「トットちゃんとトットちゃんたち」(抜粋)を読み、心に響いた部分に印を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「トットちゃんとトットちゃんたち」(タンザニアより抜粋)を教師が読み、印象に残った所を数人に発表させたい。 ・タンザニア全土ではなく、特に厳しい気象条件に暮らす子どもたちであ

	<ul style="list-style-type: none"> • 作りかけの野球ボールを握りしめたまま眠る子どもの写真を見ながら、グループでワークシートに「分かること、分からないこと」を記入する。 • 写真の中の子どもの思いや、たくましさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> • フォトランゲージ→拡大した4分割の写真を感じたことを自由に語り合いながら1枚目から徐々に見せていく。(グループに1枚ずつあると多くのつぶやきが生まれ効果的である。) • 写真から世界の子どものおかれた厳しい現実に着目して読み取らせる。 • 自分の現在の状況と重ね合わせながら、明るさやたくましさに着目させたい。
まとめる (10')	<ul style="list-style-type: none"> • 感じたことを発表し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 感想発表を聞き合い、本時を振り返り、感想文にまとめる。

※ 資料「トットちゃんとトットちゃんたち」は、P170。

児童の感想〈抜粋〉

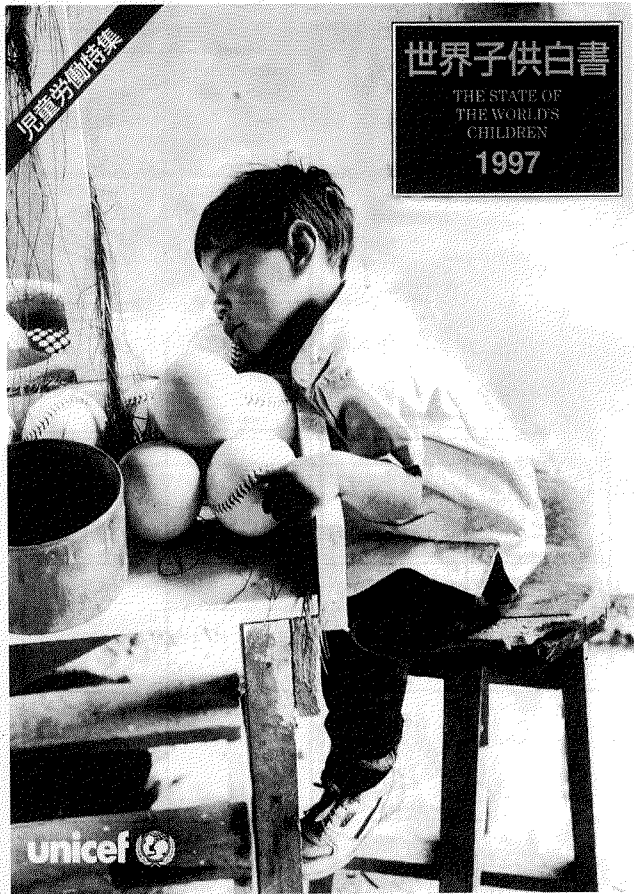
ぼくは、日本に生まれてきてよかったと思います。なぜかというと、戦争もないし食料だってあるし、水も豊かだからです。ふだん、そういう生活をしているので、タンザニアの水のない地域の話聞いたとき、「こんなこと本当にあるのか」と叫びたくなるほどびっくりしました。(中略) 今すぐにでも日本の水を持ってみんなに分けてあげたいです。こういう人たちが、今まさに苦しんでいると考えると、ぜいたくはとても言っていられないと思いました。

たくさんの人たちから、食べ物や自由や命までをもうぼう戦争を、ぼくは一日でも早くこの世からなくしたいです。

※「日本に生まれてきてよかった」という表現は共生の視点からとらえ直す必要はあるが、学びの過程としての子どもの姿である。



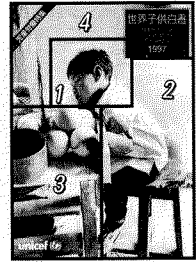
「今、世界の子どもたちは」(フォトランゲージ)



『世界子供白書1997』

(写真=ホンジュラス/1989年/UNICEF/89-0052/Vauclair)

- ① 各グループに拡大した写真を1枚ずつ、1番の部分から順番に配る。「これはある写真の一部です。これを見て分かること、分からないことをグループで相談して、1番から順番にワークシートに書いてください。」
- ② 分かることや分からないことをグループで語り合い、メモをしていく。
- ③ 発展途上国の厳しい現実だけをイメージして固定観念を植え付けないように配慮する。



〈ワークシートの例〉

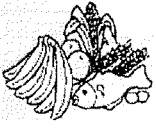
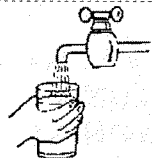
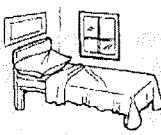
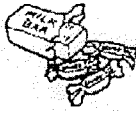




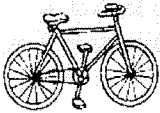






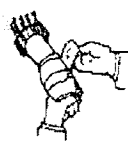

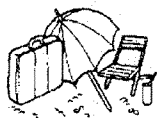


	分かること	分からないこと
写真1		
写真2		
写真3		
写真4		
感じたこと		

※現在、子どもたちの写真がこの他にも数多く紹介されている。ぜひ、明るさやたくましさや伝わる写真を選びたい。教師自身が感動を覚えるものが何よりも写真選定のポイントになる。

B 実践記録 2 『欲しいもの・必要なもの』 <11時間中の第2時>

時間	児童の活動	指導・支援
つかむ (5')	進め方を理解する。 生きていくのに欲しいもの必要なもののカードを選ぶ。 ※カードはP151 例えば、「愛・命・時間・友情」などが出された。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ(4~6人に1セット)で相談しながら進める。 ・「あなたがこの地域で生きていくために「あるといいな、なくては困るもの」を考えていきましょう。空いている欄には、ぜひこれが欲しい、必要だと思うものがまだ他にもあったら、イラストも加えて書き入れてください。」 ※(さらに何枚か希望する児童がある。数枚は白紙のカードを準備しておきたい)
ふかめる (30')	カードを見ながら4枚まで相談してしぼり込む	<ul style="list-style-type: none"> ・政治的・経済的理由ということで20枚中16枚にしぼる。→8枚にしぼる→4枚だけ選ぶ。
まとめる (10')	4枚を残した理由や相談の経過を発表し合う。感想を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返って記録をさせる。 ・代表者に発表してもらう。

『欲しいもの・必要なもの』カード

						
栄養のある食べ物	清けつな水	自分の部屋	お菓子	心地よい住居	自分の信じる宗教をもつこと	携帯ラジオ
						
テレビ	自転車	差別されないこと	教育	パソコン	最新流行の服	運動場とレクリエーションセンター
						
自分の意見を聞いてもらう機会	病気やけかを治療してもらうこと	自由に使えるお金	旅行	きれいな空気	虐待や放置されないこと	

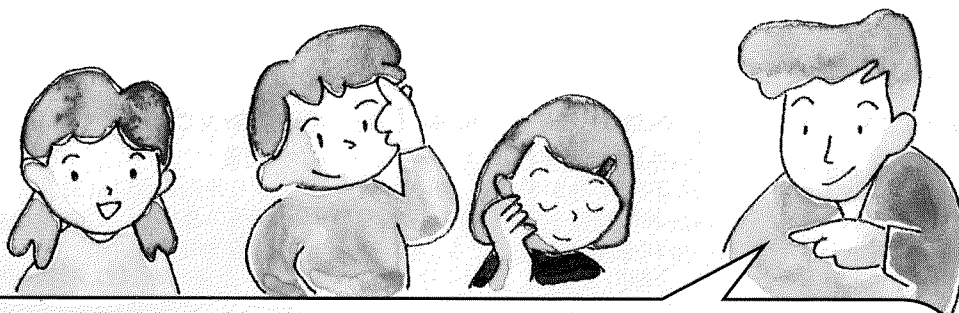
日本ユニセフ協会『わたしの権利みんなの権利』より

※日本ユニセフ協会、同会学校事業部 (☎03-5789-2014)

日本ユニセフ協会、ホームページ <http://www.unicef.jp>

※参考

子どもの権利条約の導入、つかむ場面での助言として…



世界には、戦争などによって苦しい生活をさせられていたり、命の危険にさらされたりしている子どもたちがたくさんいることを学習しました。また、そういう中でもたくましく生きている子どもたちのことを学習してきました。そして、わたしたちが生きていく上で本当に大切なものは何かを前の時間に考え合いました。

今、みんなが忘れていた生きることの尊さを教えられましたね。今日は、みんないっしょに住んでいるこの地球上で、世界の子子どもたちが幸せにくらすために、大人たちがいっしょけんめいに考えて決めた国と国との約束「子どもの権利条約」について学習します。

「子どもの権利条約」は1989年11月20日、国連総会に参加した国みんなが一つにまとまって決定し、5年目の1994年12月までに、184か国のうち、168か国が加入しました。国連が決めた人権関係の条約は、30近くありますが、こんなに早く、こんなにたくさんの国が加入した条約ははじめてです。

日本は1994年5月、158番目に加入しました。2001年5月現在で191か国がこの条約を結んでいます。それでは、これからその条約の内容について学習してみましょう。